玄諦先生想い出集

正
定念精命業語思見
進　惟

玄諦

前に生まれん者は
　後を導き、
後に生まれん者は
　前を訪ぶらい、
連続無窮にして
　願わくは
休止せざらしめんと
欲す。　―化身土文類―

ちかい

私は名誉にかけて次の三条の
実行をちかいます

一、仏と国とに誠を尽します
一、いつも他の人々を助けます
一、体をつよく心をすこやかに
徳を養います

玄

先生お気に入りの写真　昭和61年('86)元旦 先生のカメラで 末吉千鶴子撮影。
文は京都第４団35周年記念の際テーマとして引用されたものを再掲した。

旧の「おきて」 新「おきて」も筆を取ってもらっとけばと悔やまれる。

おきて

スカウトは

誠実である

忠節をつくす

人の力になる

友誼に厚い

礼儀正しい

親切である

従順である

快活である

質素である

勇敢である

純潔である

つゝしみ深い

『小川玄諦先生 Scouting History』

M.44年3.23		・誕　生（四日市　桑名）
		・7歳迄　東京浅草本願寺別院にて過ごす。
		・7歳～　京都にて暮らす。
S.5年		・故中野忠八先生の講演を聞き健児団(スカウト)活動に感動する。
6年		・大谷都健児団の活動に従事。（大谷大学専門学校在学中）
6年	4.9	・「ちかいの式」（大谷大学内にて）
6年～		・故中野忠八先生の教えを受ける。
		・本願寺健児団設立に努力する。
7年		・故三島通陽先生所長の地方実修所に入所（有馬にて）
7年～		・第1回青少年指導者研修会へ奉仕参加。後、度々の参加。
7年		・大谷スカウト母団結成。
		・大谷中学校健児団、常磐健児団創設。指導、協力する。
11年		・金星健児団を創設。副長。
		・常磐女子健児団を創設。
		・日本連盟　中央実修所入所（三島通陽所長）
12年～		・京都連盟健児団理事就任。
15年～		・大谷健児団連盟理事就任。
19年	5.3	・不幸な戦争に参加（舞鶴海軍）
20年	9.1	・無事帰洛。20日にスカウト仲間が集まり再建を誓う。
22年		・大谷健児団指導者講習会主任講師務める。
22年～		・子供を集め、活動を始める。
		・スカウトの正常化を訴え、GHQへ4度連行される。
		・ガールスカウト京都第1団、3団、4団創設。
		・全国大谷スカウト連絡協議会副委員長就任。
24年	2.17	・京都第4団創設する。
25年		・第1回日本連盟中央実修所入所（山中野営場）
26年		・ガールスカウト京都第7団創設する。
32年		・第1回　ギルエルコース入所。
		・日本連盟表彰「はと章」授章。
		・大谷スカウト特殊実修所所長を務める。
34年		・京都第30団（大谷大学ローバースカウト隊）創設する。
		・第1回極東トレーナーコース参加。
35年	1.14	・京都第38団創設する。
		・旧実修所所長(初回)を務める。
36年		・日本連盟指導者養成委員に就任。
		・北斗地区、地区委員長に就任。
40年		・京都連盟副理事長に就任。
42年		・日本連盟表彰「たか章」授章する。
44年		・ディプティー・キャンプ・チーフに認証される。
		＜数々の指導者研修機関の所長を歴任＞
55年		・大谷スカウト「先師」の称号を授かる。
61年	6.23	・東本願寺 池の平青少年センターに足跡碑建立。(妙高高原町池の平)
	11.2	・玄諦ジャンボリーで75歳を祝う。
H.5年3.11		・永眠。　享年81歳。

平成5年7月吉日

玄諦先生想い出集の発刊にあたって

編集人　末吉央伯

三指。

今年は長い梅雨だったため、待にまった夏の日差しをようやく見上げております。

皆様におかれましては、ご健勝でお過ごしの事お慶び申しあげます。

さて、このたび「小川玄諦先生想い出集」の計画をご案内させて頂きましたところ、かくも多くの方々より、さらに奥様や娘様までもご寄稿を賜わり、呼びかけ編集人といたしまして慶びにたえません。

皆様よりの心温まるご文章には、小川玄諦先生のお心が一杯の内容ばかりで、まことに有難く厚く御礼申し上げます。

発刊につきましては、時間をかければそれなりに中身の充実した素晴らしいものが出来るでしょうけれど、このたびは、出来るだけ早くに発刊したいと考えで編集を急ぎました。というのも故小川玄諦先生は生前、当時若くしてこの世を去りましたＢＳ京都第38団所属のリーダーの告別式の弔辞を、小生がまとめた時に『弔辞は死者を送る為にだけ述べるものではなく、遺されたものに対しての為にもある』とおっしゃっておられたのです。そこで今回の「小川玄諦先生想い出集」も、遺された私たちの力になればと、とりあえず集まった分だけでもまとめて刊行しようと考えました。ご執筆いただいた皆様にはお忙しい中、急かせての締切の設定となりましたことお詫び申し上げます。

しかしながら、短期間での発刊には、欠点も生じます。情報が行き届かず、掲載に漏れ悔まれる御方も出て来るでしょうし、また載せるべき写真や資料が、今後出て来るかも知れません。この先の補足や追加、さらには新たなご寄稿を期待し、今後重版を予定して、ひとまず今回は、第１版として刊行させていただくことにいたしました。

掲載順につきましては、単純にアイウエオ順といたしましたことをご了承頂ければ幸いです。水色紙の題字はカブスカウトの玄希(うさぎスカウト)が書きました。

この想い出集は単なる回顧録に納まることなく、故小川玄諦先生のスカウティング、「道を歩むスカウト一人ひとりが、自ら歩むことによって、自己を新たにすることの願い」を表していると信じて止みません。先生へのお返しは、残されたもの達へそれを伝えることによって実践されると思うのです。

最後に、ご協力ご支援を頂いた方々にお礼申し上げますと共に、粗雑な編集ついては、発刊の早さでご勘弁をお願いいたしまして結びと致します。　　弥栄。

ＰＳ　出版の費用等についてのご質問や、郵送費を気遣って切手を同封頂いた方々、ご心配有難うございます。
もしお許し頂けますなら、郵送料でもお送り下されればと、郵便振替口座番号を付け加えさせて頂きました。
第２版発行は何時になるか分かりませんが、ご寄稿や写真、資料のご送付、またご感想をお待ちいたします。

弔辞

小川先生のスカウト歴六十二年間はまことに本物でありました。その後半の三十三年間をご一緒させて頂けた者として、またスカウト上がりの現役リーダーの中で最年長としての私が、スカウト関係を代表いたしまして、弔辞を述べさせて頂きます。

小川先生の偉大なスカウト歴につきましては、「小川玄諦先生Scouting History」を先生が好まれた「うす青色」に印刷しまして配布いたしました。時間の関係上、これで省略させて頂き、先生の口癖の内、ふたつばかりを思い出としてお話しますことをお許しください。

小川先生の口癖のひとつは『わたしは今まで人を指導してきたことはありません。Suggestionが大事で、相手に教えるのではなく、学んでもらうのです』とおっしゃっておられたことです。そしてリーダーになればみな対等だと、上下関係を区別されなかったことは、ややもすると上下関係を厳しくしそうなボーイスカウト活動にあって、本当に大切なことを自ら示されたと思います。おかげでいわゆるスカウトからの叩き上げのリーダーでありました私は、ともすると上下関係にあぐらをかいていたかも知れないところ、小川先生によって、リーダーの肝心を学ぶことが出来ました。そして宗祖のお言葉通りの弟子は持たぬと、親子以上の隔たりのあります私をご自分と対等に扱って下さいました。もちろんリーダーという立場を離れたら我が子のように、子供達は孫のように思って可愛がってくださいました。

口癖のふたつ目は、『スカウティングの原理・原則を外れてはならない』と。『今の日本連盟は形式ばかりにとらわれ、本当のスカウティングではないねえ』とも。『名誉欲はあっても、名誉は失われている。「ちかい」通り名誉にかけているか、つまり本当に信頼されているか』とも、おっしゃっておられました。

長休寺の裏にありますブレハブ「ハウス長休」の使い方が乱れていると残念がっておられた際、『私がリーダーに厳しく注意いたします。スミマセン』と申しましても、「その必要はない、いうて聞くぐらいなら、スカウティングはいらない』と原点の「ちかい・おきての実践」が出来ておらんことを嘆かれて、誠実さが育たない現代社会こそスカウト活動が必要だと、黙々と後かたづけをされておられ、『本当のスカウト活動は、集会にあるのではなく、集会から次の集会の間にこそある』とも、おっしゃっていたのが忘れられません。

先生は三月十一日未明、静かに息をひきとられました。奥様はご自分の知らない間にと残念がっておられますが、先生は最後まで、いやずっとスカウトだと身を持って示されたと思います。「人のお世話にならぬよう。人のお世話をするように、そして報いを求めぬよう」(初代後藤新平総長の言葉)これを実践されたのではないでしょうか。

小川先生は今後もスカウトと倶にいらっしゃいます。お亡くなられたときの目を閉じておられるお顔は、会議のそばで腕を組んで居眠ってられるお顔のままです。この先も見守ってやって下さい。リーダー仲間として、このほかの口癖も忘れないで、お預かりしてますこのWoodBadgeとともに、先生のお心を伝えて行きたいと思います。

今日のところは、裏庭の沈丁花の花の香りとともに一先ずお別れといたします。

本当にお世話になり、そして可愛がっていただき有難うございました。

平成五年三月十四日

スカウト関係代表　日本ボーイスカウト京都第三十八団
シニアースカウト隊　隊長　末吉央伯

玄諦先生想い出集

発　行　1993年7月20日　第1版

発行者　長休寺スカウト協議会

編集者　末吉央伯

〒602 京都市上京区寺之内通新町西入 妙顕寺前町 514-10
電話 075-441-5303　FAX 075-432-5530

郵便振替口座番号　京都 7－81933　加入者名 末吉央伯